

エロマンガノゲンバ

インタビュー・キミリト
稀見理都



森山塔
(山本直樹)

海野やよい

ねぐら☆なお

河本ひろし

亜麻木陸

しのぎき嶺

ちやたるし

ダーティ・松本

手之チイラ

風船クララ

伊駒二平

うたたねひろゆき

田沼雄一郎

巻頭口絵

陽気婢

魔訶不思議

ぢたま某

魔北葵

猫島礼

がぁさん

江川広美

山咲梅太郎

田中ユタカ

島本晴海

松山せいじ

駕籠真太郎

早見純

有馬◎太郎

三峯徹

描き下ろしマンガ
甘詰留太

規制が一番酷かったのは宮崎事件のときですね。
亜麻木陸

美少女コミックの命名者は吾妻ひでおさんなんですすよ！
ダーティ・松本

私は表現規制で得をしました。
がぁさん

エロマンガバブルもあってなんとかなるんじゃないかという空気があった。
甘詰留太

29

人の

エロフェッショナル
当事者が語り明かす
禁断のマンガ史

Interview Files



田沼雄一郎

…P140



千之ナイフ

…P92



亜麻木 徒

…P54



森山塔 (山本直樹)

…P18



陽気婢

…P152



風船クラブ

…P104



しのざき嶺

…P64



海野やよい

…P30



魔訶不思議

…P152



伊駒一平

…P116



ちゃたらー

…P64



ねぐら☆なお

…P38



がたま某

…P152



うたたねひろゆき

…P128



ダーティ・松本

…P78



河本ひろし

…P38



甘詰留太

…P310



駕籠真太郎

…P254



山咲梅太郎

…P212



魔北葵

…P170



早見純

…P270



田中ユタカ

…P222



猫島礼

…P180



有馬〇太郎

…P282



島本晴海。

…P232



があさん

…P194



三峯徹

…P300



松山せいじ

…P244



江川広実

…P206

特別インタビュー！甘詰留太

「エロマンガノゲンバ史年表を読む」

描き下ろしマンガ

「いちぢきゅーきゅーペけ外伝」

1974年生まれの場合

稀見理都・コラム

029 森山塔と山本直樹ー健全と不健全ー

115 「アへ顔」の元祖は風船クラブ？

309 脳梗塞を乗り越え、

多くのファンが復帰の祝福



島本晴海。

Shimamoto Harumi ▲

93年、PCゲーム「ヴァリアブル・ジオ」（製作：戯画）のおまけ本に掲載された作品にて商業エロマンガデビュー。原稿料ありのエロマンガデビューは、95年、『漫画ばんがいち』（コアマガジン）。SFからファンタジー、現代劇とコメディタッチのハートフルエロマンガを得意とする。10年に生死をさまよう大病を患い入院。退院後も一時はマンガ家生活を休業していた。現在は復調し、瀬戸内の実家に戻り農作業を手伝いながら作品を執筆している。代表作『よっといで』、『癒されてあげる』（竹書房）など。兄はマンガ家の環望。

Interview File

19

デビュー（95年）と裏デビュー（93年）



『ちゅ〜♡べっと苺 DAYS』（富士美出版）

稀見 先生のデビューのきっかけを教えてください。

島本晴海。（以下、島本） そのもののエロマンガを描き始めたきっかけはスーパーファミコンだったんです。

僕の地元のさいたま市宮原にイエローサブマリンというホビー専門店がありました。ちなみにイエローサブマリンはそこが本店だったんです。当時はテレビゲームも盛んだったので、イエローサブマリンはトライソフトという名前でテレビゲーム関係も売り始めていました。スーパーファミコンが発売してすぐのすごい人気だった

たころ、あまりの人気のためになかなか手に入らなかった
ので、仲の良かったトライソフト池袋店の店長さんに「1個
取っておいくださいよ」ってお願いしてみたんです。そ
したら「俺、同人誌やってるんだ！ お前、マンガ描いてる
んだらう。描いてくれるんだったら、取っておいでやるよ」
みたいなことを言われて、実際に発売当日に「マリオ」と
「F-ZERO」までつけて取っておいでくれたんですよ。それ
で、同人誌の依頼書がきて見てみたら、エロマンガだったん
です(笑)。

稀見 スーフアミをもらってしまった以上は、描かないわけに
はいきませんね。

島本 描いてみたところ、大手のサークルだったみたいで、感
想がたくさんきました。その感想に「照れがある！」とかい
ろいろ書かれちゃって、なんだか悔しくて、次も描いてやる
といっているうちに常連になつていったんです。

そんなこんなで活動しているうちに、マンガ家の一本木蛮
先生のアシスタントをさせていただくことになって、他にも
商業で細々と4コマとか、ゲーム雑誌の小さいマンガを描か
せていただいています。

でも、そのうち仕事の負担が大きくなってきたので、アシ
スタントは辞めました。辞めたのはいいんですが、結局マン
ガだけでは食っていけなくて、そのころが一番のどん底でし

たね。いわゆる、塩井とか、のり井とかの生活です。

稀見 それは何歳ごろのお話ですか。

島本 24、25歳だと思えます。そんなときに一本木蛮先生の学
校の後輩に、当時17歳でエロマンガを描いていた高橋冴子さ
んというマンガ家さんがいまして、その子から電話がかかっ
てきて「エロマンガ描いてましたよね？ 私の担当さんが作
家さんを探しているので描きませんか？」と誘ってくれたん
です。彼女はコアマガジンさんとながつていたんですね。

もう、食うに困っていたので、すぐに飛びつきました(笑)。

稀見 先生のエロマンガ家としてのデビューはコアマガジンの
『漫画はんがいち』でしたね。

島本 商業誌でエロマンガを描くことにはすこし抵抗はあつ
たんですが、同人誌で何作かは描いていたし、何よりお金に
困っていたので飛びつきましたね。一応それがエロマンガの
商業デビューということではあるんですが、実は図らずもデ
ビューしてしまった裏デビューの話があるんです。

一本木蛮先生のところでアシスタントをしているとき、ま
だ4コマのデビューもしていないころですが、「ヴァリアブ
ル・ジオ」(製作…戯画)というエロゲーの次回作のおまけと
して企画している本にマンガを描きませんかと先生のところ
に依頼がきました。作家さんを紹介してほしいというような
要望もあったので、先生が一本木組のみんなに「みんな描



『漫画ばんがいち 95年8月号』（コアマガジン）
掲載作品「宇宙船 双子座号の冒険」
SF バリバリのエロコメディ作品！

くか！」と声をかけて、僕もエロパロ同人誌みたいな感覚で描くことになったんです。そんなに多く出まわる本でもないしいかなという気持ちでしたね。でも、できた本を見たら僕の作品が載ってなかった。

稀見 どういうことなんですか。

島本 だから、担当さんに聞きました。そうしたら「先生の作品は、個々のキャラについて描いたマンガじゃなくて、ゲーム全体のストーリーをうまく説明できている作品だったので、次に出るムックにまわしました」って言われました。

最初はおまけ本で出ると思っていた原稿が正式な商業誌として出ちゃったんですよ。しかもエロマンガです。

稀見 でも先生のマンガが認められたということですよ。

島本 そうかもしれないですが、設定原画集のうしろの方に載ってるんですよ。めちゃくちゃ黒歴史です（笑）。

稀見 『漫画ばんがいち』でデビューされる2、3年前くらいですね。『ばんがいち』での掲載が95年なので、おそらく裏デビューは93年あたり。裏デビューが原稿料をもらった最初のエロマンガデビューというわけですね！

島本 いろいろ黒歴史でした。その後、その原稿をなくされるというトラブルもありました（笑）。

とにかくなんでも描かせてくれた

稀見 黒歴史も含めてデビューの経緯を話していただきましたが、デビュー当時の業界と現在を比べて変化したと感ずることはありますか。

島本 デビューしたコアマガジンでは、なんでも描かせてくれました。初単行本がいい例なんです、SFがあつて、ファンタジーがあつて、ホラーもロリもあつて、とにかくなんでもかんでも描かせてもらいましたね。

この単行本に載っている作品で、今の雑誌に載せてもらえる作品なんて1本しかないんじゃないですかね。夫婦が賭けごとをしているんなプレイをするという話があります。それ以外は絶対無理ですね(笑)。

稀見 描けるジャンルが減ってきたという印象ですね。

島本 今は、巨乳ものに特化していつている感じですかね。とくにコンビニ売りはそういう傾向が強いですね。児ボ法や都条例のせいもあつて、学園ものは描けません。出版社が敏感になりすぎて、学生服も描けないという時代もありましたからね。

そういう規制によって変わってきたという部分もあります。出版社がなんだかんだ売れるものを模索した結果がSFやファンタジーの排除だったんだとも思います。

稀見 作品を描くにあたって、「これでいきましょう」みたいな話は出ますか。

島本 つい最近で言いますと、「巨乳」と「アへ顔」(笑)。自分は純愛系ばかり描いていたので、そういう要望はあまりなかったんですが、この前仕事の話をしていたときに担当さんから「先生のサンプルのなかにアへ顔的なものはないんですか？」つて聞かれたんです。

僕のマンガでは、アへ顔なんてまったく思いつかないんですが……。僕から言わせれば、あれには引くんですけどね(笑)。

稀見 一つのジャンルといえるほどに広がっていますね。

島本 あと、これはどこで描くときも言われるんですが、「貧乳」を描くと怒られるんです。なんだか面白くないですよ。だから自分は複数の女の子を出す場合は、担当になんと言われようが貧乳の子も入れるんです。そうすると「この子はあんまり出さないで」とか言われます。

稀見 「貧乳ヘイト」とも言うべき現象ですね。

島本 いろんなところで同じことを言われます。しかも、書店売りよりもコンビニ売りの方がその傾向が強いです。あと、これも担当さんの趣味なのも分かりませんが、複数のところで言われたのが、「女の子は黒髪にしてください」ということです。



「癒されてあげる♥」(竹書房)
 コンビニ系マンガでは「貧乳禁止令」なる規制が発令されている
 のことですが、それでも先生は貧乳を諦めていませんね(笑)。

稀見 「清纯さ」というか、「AKB的なもの」を求めているんですかね。

島本 あとは、画面映えるのかもしれないですね。画面が必要以上に白くならないからですかね。

ただ、つやベタ作業が面倒くさいですよ(笑)。

稀見 多くの作家さんに共通することですが、昔は比較的自由に描けていたものが、規制やその他の要因もあって作品への要求が多くなってきたわけですね。

島本 より商業性が強くなってきた気はしますね。コンビニ売りほど強くそう感じます。

稀見 単行本の部数の変化はありましたか。

島本 自分は常に中堅作家を続けていたので、そんなには変化はないですね。嬉しくもあり、悲しくもありですが。

純愛ブームのとき、学園ものを描いた本が自作のなかで一番売れていますね。当時は「時代きたー！」って思ったんですが、すぐに元に戻りました(笑)。

今夜が山なので、家族を呼んでください

稀見 先生は、10年に大きな病気をわずらって大変な体験をされたと聞きました。詳しくは闘病を書き綴ったブログ「島本 晴海闘病生活日記」(<http://banasaru.sakurane.jp/tobyoo1>。

htm)を参照していただくのが一番ですが、ざっくりと経緯をお話いただけますか。

島本 原因は自分の不摂生だと思っています。当時は結構無茶な仕事の仕方をしていまして、基本的に睡眠時間は1日に1、2時間、多くて3時間という感じでした。

食事も考えていたつもりだったんですが、いま考えたら脂ものが多かった気はします。そんな感じだったもので、ちょうど体が弱くなっていたときに、ウイルスにやられたんだと思います。

稀見 あまり大人には感染しないウイルスだと聞きました。

島本 そうですね。基本的には、1桁代の子どもがかかる病気らしいんです。僕の世代で発症したという例はなかったと聞いています。当時僕は40歳ですからね。担当医には、治つたら最高年齢記録として症例に載るって言われました。

経緯を述べますと、最初は、風邪を引いちゃってただの扁桃炎というくらいだったんです。町医者について抗生物質を打ってもらい、家に帰りました。けれども、治りが悪くてそれを繰り返しているうちに1週間が経ちました。おかしいなという話になって、紹介状を書いてもらって大きな病院にいつて検査をしたら、即入院になってしまったんです。でも、大きな病院でも扁桃炎という診断は変わらず、そこで入院しながら耳鼻科に通っていたんです。

稀見 入院しながら、外来に通っていたんですね。

島本 痛みもなく自分が重い病気だとかいう自覚症状はなかったんですが、5日くらい経つたとき、体がどんどん重くなってきた、意識ももうろうとしてきたんです。何も考えられなくなりました。

その病院でももうお手上げだということになって、さらにもっと専門的な病院、埼玉で一番大きな病院に転院することになりました。そうしたら、すでにかなりヤバイ状態になっているって言うんですよ。そこでCTスキャンやら検査を受けているときに麻酔で意識を失ったんです。姉が付き添いで来てくれていたんですが、ドラマでよくあるような「今夜が山なので、家族を呼んでください」と言われていたそうです(笑)。

稀見 そんなに厳しい状態だったんですね！

島本 次の日、目が覚めたら家族がみんないるですよ(笑)。僕は5人兄妹の7人家族なんですが、その7人が全員いるんです。この年齢になって兄妹が全員そろうなんて滅多にありませんよ。

「なんで全員集合しているの？」って聞いたたら、どうやら僕は死ぬところだったらしいんです。でも死ぬ間際だったというのに先生には「あなたの病気は分かりません！」って言われた(笑)。

そのときは、ちよつと「カチーン！」ときました。が、どうやら原因は分からないけど、容態を診つつ対応した結果、なんとか一命を取り留めたということだったんです。原因は分からないけど、分かっていることは腎臓、肝臓、脾臓、肺がやられていたということでした。

稀見 大ダメージですね！

島本 多臓器不全というやつですね。原因をこれから調べるので、集中治療室で今後治療していきますということになりました。

稀見 もちろん、のちに病名は分かるんですよ。

島本 はい、伝染性単核球症という病名でした。一般的にはEBウィルスという、一般人の9割近くがもとも保有しているウィルスだそうで、ときに劇症化して悪さをするそうです。僕の場合は多臓器不全でしたが、人によってはリンパ腫とか脳腫瘍とか癌に近い病気になる人もいますよ。

稀見 基本的には免疫を弱くして、いろんな症状に発展させるんですよ。

島本 体が弱っていると、運みたいなものではありませんが、劇症化することがあって、僕もその例なんだと思います。一応、今年（取材当時）の4月の段階で大元となるEBウィルス残量がなくなつて完治しました。

ただし、副作用による後遺症などはいろいろあります。そ

れで、さつき完治したら症例として載せてもらえるって言うたじゃないですか。でも、1年前だったか、爆笑問題の田中さんが病気で入院したじゃないですか。あれ、EBウィルスだったんですよ。田中さんは当時47歳だったので、記録を更新されちゃったんです（笑）。

稀見 せつかくのチャンスが残念でしたね（笑）。

島本 なんか残念でしたよ。でも、田中さんの場合は早めに見つかつて早めに処置したので、1週間退院されたようです。

入院してしばらくは1日1キロ減

稀見 具体的な後遺症はどういう症状なんですか。

島本 初期のころにブレドニンという抗炎症剤を服用した結果、副作用として副交感神経をやられちゃったんです。それのせいで、非常に面倒な後遺症を患うことになりました。最初は関節が痛いという症状だったんです。リュウマチに近い症状なんです。医者は全然リュウマチとは違うと言ってますね。

いろいろ調べた結果、自分の病気の経緯から判断された病名は線維筋痛症でした。簡単に言うと、神経過敏なんです。たとえば、関節を反らしたとき、実際に曲げて伸ばした以上に関節が痛いと認識しちゃうんです。その認識が脳に伝わ

て、痛みとして感知してしまうんですね。それが全身にわたっている感じですよ。

今はだいぶ緩くなっているんですが、退院した当時は厳しかったですね。椅子に座って1時間くらい経つと、もう立ち上がれないんです。足首と膝関節と股関節が固まっちゃって、動かそうとすると痛いんです。そういう状態だと、立つただけで転びます。

先生に相談したら「今の状態だと1級の障害指定を与えられるレベルだが、その認定を受けるには数値として出さないとけない部分があって、この病気だとそれはギリギリ難しい」と言われました。

稀見 症状としては十分クリアしているけれど、数値として出ない病気なので難しいとなるんですね。

島本 1級どころか2級も3級もダメなんですよ(笑)。それを聞いたときに「マジかー！」って思いました。治るか、治らないかも人によって違うらしいので地道に様子を見ていくしかありません。

今のところ、4年経ってたいぶ緩くなつてはきましたね。あとは、多臓器不全になったせいで、肝臓と腎臓が完全には治らない状態になっています。それなりの食事制限をしないといけないんです。退院するまでは衛生面を完璧にしないではいけなかったんです。ホコリ、カビ、菌関係は完全

にNGでした。

それから、腎臓関係でいうと、退院当時は肉とかのタンパク質が1日の摂取量が60g、塩分が5gでした。ちなみに塩分5gはカップ麺1個でオーバーします。かなり厳しいですよ。闘病日記の方にも当時の食事を載せましたが、本当に「これだけ!」っていう量でした。

稀見 体重の変化はありませんか。

島本 減りましたね。恥ずかしい話ですが、入院前は84キロあったんです。退院するまでに64キロになっていました。

稀見 20キロ減ですね。

島本 入院してしばらくは1日1キロずつ減っていましたね。人工透析もしていました。1回人工透析すると、1、2キロ体重が減るんですよ。血液から悪い部分を抜いていくので、そのぶんが減るんです。かならず体重は量るので、毎回「スゲー!」って思いましたね。退院する最後の1ヶ月くらいは安定していました。退院したあとは、ほとんど野菜生活になりました。

この年なんですけど、かなり大変だったので、さすがに親から「実家帰ってこい!」と言われました。僕の実家は瀬戸内の島なので、いまだにネット環境がADSLだったり、パソコンを注文しても1週間かかるところなんです。だから、仕事はできねえ〜って(笑)。

稀見 急にパソコンが壊れたりしたら大変ですね。

生活サイクルがいかに大事なことか

島本 まだマンガで食っていきたくないなと思っていたので、一度家族会議を開いたんです。「今までさんざん不摂生してきた人間が、今後厳しい食事制限のなかで関東でやっていけるのか！」って言われました。

ともかく、やるしかないだろうと思って、まずは部屋が汚かったので、いろんな人に手伝ってもらって片付けました。本当に必要なもの以外は全部捨てましたね。本当にがらんとした部屋に帰ってきてから一からやり直しという感じでした。

今までは弁当で済ませていましたが、自分で家事もやるようになりました。入院しているときに生活サイクルというのがいかに大事かを思い知らされたんです。というのも、夜更かしをしただけで、腎臓の数値がガーンと落ちるんですよ！

稀見 数値は正直なんですね。

島本 正常な人の肝臓の数値を100としたら、入院したときの自分の数値は1桁台でした。それが命を取り留めた状態で10台に乗って、そしてだんだん回復させていって50くらいま

で戻ったんです。60くらいまでいったら退院していいということだったので、それが目標でした。

でも、入院しているときも仕事のことを心配で一度徹夜をしてしまったことがあったんです。そして前日まで58くらいで、あと2だけ上がれば目標達成だった数値が、徹夜1回で52まで下がっちゃいました。数値を6上げるのに何週間かかったことか！

そのとき人間って不摂生をすることでどれだけ体に負担をかけているかということを知りましたね。

稀見 いろいろと自分も身につまされます。この病気を体験されてから仕事の進め方を含めていろんなことが変わったんじゃないですか。

島本 まったく変わっちゃいましたね。病気で仕事を1本落としちゃったこともあるので、信用部分においてもいろいろと傷をつくってしまったと思います。

病気をしたこと、仕事がめっきり減ってしまいました。依頼もとにかく減りましたね。病気を抱えている作家はやっぱり怖いんだろうと思います。

もちろん、仕事のスピードはかなり落ちましたね。できる時間が減ったことと、さつきも言いましたが、後遺症があって長時間ペンを持っていられないということもあります。昔なら、1日に4、5ページいけたのが、今だと1日に1、2

ページいけば御の字というレベルです。

こいつ、マンガを描くこと辞めさせたら死ぬよ

稀見 今はものすごく健康的な生活をするようになったと思いませんが、そうなるまわりの人の不摂生が気になりませんか。

島本 最近、サボらないようにネットで画面共有をしながら作家仲間と作業するんです。そうしたら、そこにいるんですよ、昔の自分が(笑)。もう心配で仕方がないですよ。

でも、当時の自分もそうだったんですが、自分だけのはって思っちゃうんです。でも、僕が言うと「島本さんに言われると重いよ(笑)」って言うってくれる人もいます。自分が体験しているからこそ言えることだとは思いますが。それでも聞き流しちゃう人はいるので、そういう人がいるとすごく心配になりますね。

稀見 今、そういう不摂生をしている作家さんに言いたいことはありませんか。

島本 「とにかく睡眠時間だけはしっかりとってほしい」と言いたいですね。睡眠時間はでかいです。この年くらいのキャリアの作家さんなら、昔みたいに無理ができないということが分かると思うんです。

昔は徹夜を自慢みたいに言ってたんですが、結果として自

分は死にかけましたからね。昔は大丈夫でも、それは確実に蓄積していきます。自分は結局その蓄積のせいで死にかけましたし、それを取り戻せないところまで来て、後遺症に悩まされながら絶対に無理ができない生活を強いられる状態になってしまいました。

稀見 島本先生に言っていたけるとすごく説得力がありますね。この本を読んでいる不摂生な作家さんに届いてくれれば嬉しいです。

島本 僕の兄が環望というマンガ家をやっています、そのアシスタントに学生時代からの僕の親しい友達がいまして。「トランスフォーマー」とか、すごくアメコミが好きをやつだつたんですが、ハリウッド版最初の劇場版「トランスフォーマー」の公開の夏に肝硬変で亡くなったんです。

やっぱり、そういう食生活とか不摂生が原因でした。いまも彼の写真を戒めとして自分の机に置いているんですが、それでも自分は死にかけたんですよね……。健康面に関しては甘えがあったんでしょうね。

稀見 なかなか難しい面もありますが、それでも先生のように大きな病気を体験された方に、病気について語っていただけるのはありがたいです。一つの情報として多くの方に共有してもらうことが重要です。こういうことになる可能性があるという情報を知っておくだけでもだいぶ違うと思うんです。

島本 そうですね。自分の場合は、亡くなった友達がいたにもかかわらず、教えてくれる人間がいなかったというのがあります。

稀見 実体験のエッセイコミックとかいかがですか。

島本 そういう売り込みができればいいんですけどね(笑)。

実は兄の環望が、僕がこつちに残ってマンガを描けるよう決定打となることを親に言ってくれたんです。そのおかげで親もしぶしぶ納得してくれました。その言葉が「こいつ、マンガ描くこと辞めさせたら死ぬよ」だったんです。

たしかに、いまマンガを描かなくなっちゃったら何かが抜けちゃうんじゃないかと思うんです。そのへんを兄がちゃんと見てくれて、こつちでもうすこしマンガを頑張ることができるようになりました。自分は昔からいい加減な人間だったので、こんな規則正しく健康的な生活なんてできない



『スカーレット オーダー 1』
環望 (メディアファクトリー)
島本晴海。先生の兄でもある環望先生のこの作品は10年にアニメ化された。監督は新房昭之。

だろうと思われるんですが、人間死ぬ気でやればできる(笑)。マンガを辞めるんだったら死ぬ気で頑張れるんだって！

稀見 それは大きなモチベーションになりますね。今回の記事は若い世代に一番読んでほしい内容になりました。僕らの世代の作家さんは涙して納得されているかと思います(笑)。

14年7月5日

大宮のカラオケ屋にて収録



島本晴海。